

花甲錄

內山完造著

992

934

376052

1冊

内山完造著

花甲録

岩波書店刊

花甲録

昭和三十五年九月二十日 第一刷発行 ©

定価七百五十円

著者 内山完造

発行者 岩波雄二郎

発行所 株式会社 岩波書店
東京都千代田区神田一ツ橋二丁目三番地

精興社印刷・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします



小 序

万物はことごとく歴史を持つ。

たとえそれはかげろうの短命に於いても、はたまた浜の真砂子の一粒にありても、かげろうはかげろうとしての真砂子は真砂子としての歴史を持つてゐるはずである。されば人間と云う万物の靈長に於いてはたとえどんなに凡愚であつても、あるいは狂人であつても必ず歴史を持つてゐるものである。しかもその人間の歴史なるものは人間と云う点に於いては四海ことごとく同じではあるが、一人として全く同じ歴史を持つものはその人の外には無いのである。天下に号令する英雄の歴史も名もなき賤が伏屋の孤独者の歴史もこの意味に於いては何れもまさに世界唯一である。

中国人の習慣によれば年六十になるとともに多く自らの年譜なるものを作り、自らの歴史を書くことをする。私は今六十を超える四歳にして初めてその意のあるところを知ることが出来た。かつて再びまでもペンを取りながら遂に全うするを得なかつた私の歴史に三度ペンを走らせる心になつたのである。たとえ私の歴史が如何に貧弱であつても、また世に無益な事柄であつても、私の歴史は私以外には持つ人は無いと云うただこの一つのことによって私は書かねばならんと云う勇氣を得たのである。

序
しかしながらそれ故に私の歴史が他人の歴史の借着であつてはならん、嘘を書いてはならん。人々を騙ます様なものであつてはならん。無暗なる誇張をしてはならん。あくまでも私の歴史は私の歴史でなくてはならん。この意味に於いては一字一句の事柄も断じて輕々しく扱うてはならん。そこに私の責任と義務とがある。

小
私は今その責任と義務とを負うて恐らくはかげろうに劣り真砂子の歴史の一点にも及ばないものであらうことを知

りつつも、止むにやまれずして私の歴史を書く。名づけて花甲録と云う。

一九四九 十二 二十五

聖誕節の朝門司に於いて記す

内山 完造

西曆一千八百八十五年
紀元二千五百四十五年
明治乙酉十八年

一月二十五日 大山陸軍卿等帰朝

二月七日 富豪岩崎弥太郎歿す

四月十八日 特派全權大使伊藤博文清国全權委員李鴻章と天

津条約に調印す

七月二十六日 車駕山陽巡幸

八月十二日 車駕還幸

九月二十五日 豪商五代友厚歿す

十月十一日 日本郵船会社成立す

十一月二十三日 自由党员大井憲太郎等朝鮮に事を挙げんと

して大阪に於いて捕えらる(大阪事件)

十二月二十日 宮中、府中の制を改む

十二月二十二日 太政官を廢し新官制内閣の組織成る

とは日本歴史年表の記すところであるが、この年なお一つ追加事項として書き込まなければならんことがある。

それはなにだ、何んでもないことだが、それがなければこの本が出来ないのだ。曰く、

一月十一日、内山完造、生ると云う一項だ。今少し詳しく云えば山陽本線笠岡駅から井笠輕鉄に乗り替えて終点駅井原に下車してさらに乗合バスで小田川の清流に沿うて一里ばかり北行すると芳井村(足次村と芳水村とが合併したもので、現在は芳井町)がある。その沢岡と云う所に内山姓の家が四戸ある。本屋と云うのが一番古い家である。裏の畑の中に墓場があって自然石何十個かの無名の墓が並んでいるのであるが、四戸の中で最も貧しい様であった。本屋の当主治平老は駄馬にはかせるわら靴を造って売って居った。夫婦ともにまれな大變気の好い人で二人の息子があって後年二人とも立派になって健在である。この家へは近所の青少年達がよく集って来て碁を打ったり将棋をさしたりして居った。この家から分かれたのが下店と云うてその下隣で当主は藤太郎と云うて村一番の庖厨の人であつただけに農家でありながら家では宿屋を営んで居った。太々神樂や千金丹売などが泊って居った事がある。長男貞太郎が若い時に家を出たまま一枚のはがきの便りもないので多分死んだのであろうと云われ、五十年後東京目黒に無事に居った事が本人の帰郷によって解った。長女はおひではんというてんかん持

ちであつたが夭折した。次男某も夭折した。三男坊のとも力の強い小柄な芳さんが後継者となり今は宿屋は廃業したが雜貨商を営んでいる。この家から分かれたのが堂ノ上である。当主を賢太郎と云うた。一人の姉は隣村高屋村の丹生と云う山ノ上の農家中村文太郎に嫁し、二人の弟は一人は医者志し一人は法学志して上京勉強したが、何れも志ならず脱線して放浪者となつて居つたが末弟だけは後年丸亀で成功者と云われる生活を営んで居つた。この家の先代時衛と云う人に二弟一妹があつて、妹は福山の旧家布袋屋に嫁し、一弟は塩業家に養子し、一人が分家して、中立屋と云うた。当主庄三郎はその人であつて非常な儉約家である所から人々呼んでコブ庄と云うたが実に強い意志の持主であつて、ワンプクの私に對しては大変好い人であつた。私の記憶ではこの中立屋のおじさんは永く私の脳裡から決して消えない人である。この人には一男一女があつて二人ともに親に輪をかけた儉約主義の人であつた。そのために後には後月郡屈指の資産家になり、今は孫の新さんが主人となつて依然有数の資産家である。以上四戸より無い内山姓は恐らくは何所からかの移住者であらうと思う。この中の堂ノ上が私

の生家で父は村會議員とか村長などをつとめ、母は名を直と云うて、井原の印判屋萩田長三(号を雲崖と云い興讓館主阪谷朗廬の門下にて書をよくす)の長女であつた。賢太郎に嫁して四男三女を生み、一男三女はともに幼くしてまた成人して後世を去つたので、今は私と二人の弟のみが健在である。一弟は即ち家を継いで与井(芳井町の字)に店して藥種商を営み、自らは衆望を担うて郡の商業協同組合長として働らいている。末弟はかつて丸亀のおじさんの所へ養子したが後離縁して復歸して學校教員をして居つたが、退いて中国出版書籍専門の内山書店を東京で經營する傍ら近年は學校劇の指導に活動している。中国の美術界に一線を画した魯迅先生によつて指導された中国の木刻画に最初の手ほどきをしたのはこの弟であつたのだ。私が生れて二十日目に私の家は丸焼けになつたと云うことである。私が七八歳の頃人々からじょうだんに「完造はんそれもん鐘じゃ」(鐘の音のこと)と云われただけで、私は青くなつて家へ飛んで歸つたものである。全く塩辛にも似合わない行為は、あるいはその丸焼けの時にお寺の鐘をつづけてつく早鐘の音が潜在して居つたのかも知れないとは私が度々人にも語り何処か

にも書いたことである(イタズラッ子を塩辛と云う)。

明治丙戌十九年(1886)

一月二十六日 北海道庁設置

三月二日 帝国大学令公布

十月二十一日 英国汽船ノルマントン号紀州沖にて沈没す

十一月十六日 万国赤十字条約に加盟公布

追加事項 内山完造一歳となる。

明治丁亥二十年(1887)

二月十八日 天理教祖中山美伎子歿す

五月一日 井上外務大臣各国公使と条約改正会議を開く

追加事項 内山完造二歳となる。

明治戊子二十一年(1888)

四月十七日 市町村制公布

四月二十五日 学僧福田行誠歿す

四月三十日 枢密院創設

五月七日 学位令により加藤弘之、箕作麟祥、伊藤圭介等始めて博士号を受く

七月十九日 山岡鉄太郎(鉄舟)歿す

追加事項 内山完造三歳となる。

明治己丑二十二年(1889)

一月十一日 新皇居成る

一月二十一日 改正徴兵令公布

二月十一日 帝国憲法発布せられ皇室典範定めらる

この日文部大臣森有礼刺さる

七月一日 東海道全線の鉄道全通し新橋神戸間直通運転開始

七月三十一日 土地収用法

十二月三日 警察官及び消防官帯剣を定む

追加事項 内山完造四歳となる。

明治庚寅二十三年(1890)

一月二十三日 京都同志社の創立者新島襄歿す

二月十一日 金鵒勲章創設

四月十四日 府県制公布

十月二十日 元老院廃止

十月三十日 教育に関する勅語降下

十一月二十五日 第一回帝國議會召集せらる

追加事項

内山完造五歳となり、四月一日、化成尋常小学校に入学す。尋常小学読本入門の第一課はハトで、第二課はハナトリ、第三課はキリカンナであった。

私の塩辛はすでに有名であった。今も私の額にある彼の三日月形の傷跡は間違いない鉄証である。数人の子供と喧嘩して、小刀を振り上げて切ってやると追いかけて廻っている中に自ら倒れて自分で切ったのである。その塩辛には父母も困って居ったが近所の人々を困らせたのだ。

明治辛卯二十四年(1891)

一月十三日 保安条例により壮士二十七名に東京より退去を命ず

一月二十日 帝國議事堂焼く

三月八日 東京駿河台ニコライ会堂開堂式を行ふ

三月二十日 大阪に於いて自由党生れ、板垣退助を総理となす

五月十一日 来訪中の露国皇太子(後のニコライ二世)大津に於いて巡查津田三藏に傷けらる(湖南の変 大津事件)

五月十二日 天皇京都に行幸露国皇太子を見舞わる

五月十九日 天皇神戸に行幸露国皇太子の帰国を送らる

五月二十二日 天皇東京に還幸

六月七日 敬宇中村正直博士歿す

十月二十八日 岐阜愛知両県地方大震災にて死者四千余人を出す

十一月八日 改進黨首領大隈重信、自由党総理板垣退助と会見し両党聯合の機漸く熟す

追加事項

内山完造六歳となり、四月一日、化成尋常小学校二年生となる。いよいよ塩辛を発揮す。この頃より私は子供神楽の仲間入りをした。適役はマツタリと云う滑稽者であった。

明治壬辰二十五年(1892)

二月一日 画家五姓田芳柳歿す

二月十五日 衆議院議員臨時総選挙を行う。各地の政争激烈を極め各処に流血の惨を見る

四月十日 東京神田日本橋両区大火

四月十二日 条約改正調査委員任命さる。伊藤博文、榎本武

揚、後藤象二郎、副島種臣、黒田清隆、寺島宗則、井上馨
以上

五月二十一日 保安条令により壮士百四十三名を東京より退

去せしむ

六月十七日 小包郵便法公布(十月一日より実施)

十一月三十日 軍艦千島伊予堀江沖にて英艦ラヴェンナ号と

衝突沈没し乗組員七十余名溺死す

この頃探偵小説大流行す

追加事項 内山完造七歳となり化成尋常小学校三年生

となる。いよいよ塩辛を発揮し子供神楽に熱中しよく賞讃を博す。子供将棋界で福やん、鶴やんと伯仲であったが勝味は少なかった。化成校で現在で云う学芸会の如き幻燈映写会あり、河合福一と私とが選ばれてお話をした。

これが私の初舞台であった。私の話はそばきりの話であったが、父兄の評は福やんは落ついてなかなか上手であったが完造はんは早口で落つきがなかったと云うことであつた。後に福やんは天理教の教師になり、私は道楽ではあるが漫談漫語で中国の民衆生活を日本全国に伝えて居る。幼年にしてすでに多弁であつた私は、まさに雀百まで踊りを忘れぬものである。この頃私はひなごこと云う峠を越して約一里の路を高屋村丹生の親族の家へ父の

使いに単身でやらされたものであった。

明治癸巳十六年 (1893)

一月二十二日 劇作家河竹默阿弥歿す

三月二十日 海軍大尉郡司成忠の一行隅田川を発して千島開

拓に向う

五月十九日 福島県信夫郡の吾妻山噴火

六月二十九日 歩兵中佐福島安正ベルリンよりの帰途単騎シ

ベリヤの遠征を終りて帰京す

十一月二十五日 ラヴェンナ号と軍艦千島の衝突事件横浜英

国領事裁判所に於いて我國の敗訴となる

この年禁酒運動及娼娼運動起る

追加事項 内山完造八歳となり化成尋常小学校四年生

となる。中立屋(分家)の裏の井戸に鯉が飼つてあつたのを釣つて叱られたこともあつた。数人の友達と小溝を干して魚を探るとて岩のカケを二人して運ぶ時に過つて落して右脚のアキレスケンのあたりに乳児の口のような傷をしたこともあつたが、また裏の小川へ流し針をつけて鰻をとつた事もあつたのも多分この頃であつたと思う。本屋の丈やんに泳ぎにつれられて碓淵へ行つてアブアブや

らされてそれからにかく泳ぎと云うことが出来る様になつたのだ。また西吉井への里道の山の下に真宗寺と荒神様と当正寺と云うのが並んで居つてその荒神様の石燈籠に毎晩各家が交替で当番になつてお燈明を上げに行くようになって居つた。堂ノ上の当番の時はいつでも幼い私が油壺とマツチを持って行つたものである。暗くなしかけた山裾の寺や神社は何んとなく淋しいものである。しかも石燈籠が少し高いので小さい私は抱きつくようにして油を差して火をつけたものだ。時々ガサガサと云う音に冷や汗をかかされたことがあつたが、それでもとにかく私は逃げるようなことや、声を立てたり泣いたりするようなことはなかつた。私の塩辛はいよいよ塩辛く、子供神樂のマツタリはいよいよ好評であつた。

明治甲午二十七年(1894)

三月九日 明治天皇大婚二十五年祝典(銀婚式)

三月二十七日 朝鮮の志士金玉均上海東和洋行に於いて刺客の爲め殺さる

五月十五日 詩人北村透谷自殺す

六月二日 画家森寛斎歿す

六月五日 朝鮮に東学党の乱起り駐韓公使大島圭介京城に向う

七月二十五日 我海軍朝鮮豊島沖に於いて清国軍艦操江号を撃沈す

七月二十八日 我軍成愼に勝利し牙山を抜く

八月一日 我国は清国に対して宣戦す

八月二十六日 我国は朝鮮と攻守同盟条約を締結す

九月十五日 大本營を広島に進む

九月十六日 我軍平壤を占領し敵將左宗貴將軍戦死す

九月十七日 我海軍黄海に於いて清国北洋艦隊を破る(黄海の戦)

十月二十日 第七回帝國議會広島に召集され、軍費一億五千万円を可決す

十月二十二日 両羽地方大震あり庄内地方被害甚大

十一月二十二日 我第二軍旅順口を占領す。この日清国政府は米国公使を通じて講和を提議し来る

十二月十日 我第一軍第二軍の連絡なる

追加事項 内山完造九歳となり化成尋常小学校を終わ

り、さらに精研高等小学校(井原町に在り一町十二カ村立て後月郡にただ一校の高等小学校であつた)に入学した。全校の生徒約千人で私は最年少にしてまた体軀も最も矮小であつた。この頃の通学は往路は自由であつたが

復路は各々の町村名等を冠した部をつくって居って各部列をつくって帰るのであった。私は川奥部(井原以北を合併して云う)に属し、部長副部長を困らせること毎日の如く幾度となく罰則を受けた。

明治乙未二十八年 (1895)

一月二十四日 有栖川宮參謀總長熾仁親王薨去せらる

二月十二日 北洋艦隊降伏—司令官丁汝昌自殺す

三月二十四日 兇漢小山六之助清国講和使李鴻章を馬関に於いて傷く

四月十七日 台湾及び遼東半島我有となり償金二億両を得て日清講和成る

五月十日 独仏露三国干渉起り遼東半島を還付するの詔勅下る

五月三十日 車駕東京に還幸

九月二十八日 北白川宮能久親王台湾に於いて薨去せらる

十一月七日 二十七八年戦役の戦死者大寺少将以下一千四百名靖国神社に合祀せらる

追加事項

内山完造十歳となり精研高等小学校二年生に進級す。この時甚だ多くの者落第せり。席順は宮嶋一

番松本二番そして私は六十何番かであった。化成校在学中受持教員 Y 先生から厳罰されたことを根に持って、毎朝 Y 先生と通学が対面交通になる所から、その都度徒党を組んで喧嘩を売るような真似をしたので、Y 先生は泣いて事情を精研校校長に訴えられた。そのために私は校長先生及び前に云うた井原町の荻田(当主は母の弟元治郎)と田中(これも井原にある母方の親戚)のおじさんから大目玉を頂戴したことがあった。私の行為は今日の言葉で云えば疑いもなく不良であったのだ。その塩辛は遂に全校生徒中の三幅対の一人となった。母から村儒三宅栗斎翁が書かれた韻なるものを見せられた。「かんぞうはかねて甘しとききつるにし、おのからしときいてびっくり」と書いてあった。私が幼少からどんなに塩辛であったか説明の要はあるまい。しかし私が三幅対の一人と云われるまでにはなかなか容易ならん悪戦苦闘があったらしいが、もう私もはつきり覚えて居らん。

明治丙申二十九年 (1896)

一月二日 台湾に土匪蜂起せしも平定せらる

一月九日 衆議院に於いて遼東半島還付に關する閣臣彈劾の上奏案上提されたるも否決せらる

二月十一日 朝鮮親露派の首領李範晉ひそかに国王及び世子を露公使館に導き、詔勅を發せしめて親日派の金宏集等を死刑に処して梟す。之れより朝鮮の実権親露派に帰す

三月二十四日 航海獎勵法造船獎勵法公布

四月一日 大本営閉鎖され拓殖務省設置され高島鞆之助大臣となる

五月十五日 朝鮮公使小村寿太郎朝鮮駐劄露国公使ウエーバー氏と覺書きを交換す

六月九日 山県有朋露帝戴冠式に參列し日露協商を締結す

六月十五日 三陸地方大海嘯起り被害甚大

八月三十一日 秋田岩手両県大震災

この月露清密約締結され露国は滿洲鐵道布設權を獲得した

十月三日 日本郵船会社濠洲航路を開く

十月十五日 各大臣の護衛巡查を廢止す

十月三十日 志士荒尾精(上海東亜同文書院の創立者)黒死病にて台北に客死す

十一月二十三日 小説家樋口一葉女史歿す

追加事項 内山完造十一歳となり精研校三年生に進級す

受持教師M先生に反抗して黒板に「宮——お前の前にぶら／＼するのはあれやなんじやいな、あゝそれは狸の金玉しらないかトコトナヤレ、トナヤレ、トナヤレ」

と書いたのを見られて、こっぴどく叱かれて以後いよいよ大猿だならざる仲となり、ある日伯夷叔齊が父王の遺言と自然の順逆との重大性に対する衝突から遂に双方が首陽山に匿れるに至った故事を、日本の神武天皇が第四の皇子でありながら登極されたことに比較して伯叔に劣るとなし、その表現に當って馬鹿と云う言葉を使った(山猿の悲しさに適当な言葉を知らなかった)為めに先生の激怒に直面して縮み上ったこともあった。私はまた相当早熟児でもあったらしい(体軀の矮小に似ず)。同級の女生徒達の名を手帳に記して、吾が権妻なりなど書いて居ったのを中立屋の老人に見つかって大いに叱られたことなどもあつて立派な不良であつたようだ。しかし校長多賀先生はいつも私を静かに教え導いて下さったと後々にまでも私は喜びとともに感謝している。

明治丁酉三十年(1897)

一月十四日 英照皇太后(孝明帝の皇后)崩す

三月二十九日 貨幣法(金貨本位制)公布

この月古河の足尾銅山鉍毒事件發生す

四月一日 台湾銀行法伝染病予防法公布

四月二十二日 露国は日露協約を無視して士官三名下士十名

を朝鮮の雇用に応ぜしむ

四月二十七日 東京上野に帝国図書館開設

六月二十二日 京都帝国大学官制公布。従来の帝国大学を東

京帝国大学と改称す

六月二十八日 台湾のモリソン山改称、新高山

七月二十七日 岸竹堂画伯歿す

八月二日 日本勸業銀行開業す

八月二十四日 陸奥宗光歿す

十一月十四日 ドイツ艦隊清国膠州湾を占領す

追加事項 内山完造十二歳となり、四月一日、精研校

四年生に進む。しかも私の不良性は学問よりも商売人に

ならせるをよしとする説親族間にて勝を占めるに至り、

遂に大阪に奉公させることに決す。私もそれを喜んで承

知した。ある日、論敵三宅源重郎と、奉公人となること

と上級学校に進むことについて論戦して私は負けた。

しかし私は私の父のみが白飯を食べて外の者は皆半麦飯

を食べることに反抗して、大阪へ奉公すれば毎日三度白

飯であることを聞いて日々どんなにつらくても決して帰

っては来ない、毎日お祭だからと云うて居ったのである。

いよいよ大阪行きが急に決って、十月十四日、私は精研
高等小学校四年生を中途退学した。校長多賀定市先生は
とくに、

男子志を立て郷関を出す

業若し成らざれば死すとも還らず(とくに業の字を

使う)

骨を埋む豈に墳墓の地を期せんや

人間至る処に青山あり

と云う詩を書いて餞けされた。

十月十五日、母によって色々の準備がされた。私の父

は不在中であつた。母は私の門出を祝うて私の一番好き

な白飯の汁かけ飯を御ちそうにつくってくれた。私が食

事している時母はそばに居って、「のう、完造や、人は、一

生、名は、末代までじゃで、どうぞ御主人様によく仕えて、

必ず出世して故郷へ錦を着て来るんじゃでのう」としみ

じみと泣いて餞けの言葉をくれたのである。それは今も

私のはっきりと脳裏に烙印されているものである。私の

母は女大学をそのまま生活した人であつた。私に餞けさ

れた人は、一生、名は、末代と云う言葉は今日一度の言葉では

なく、実に彼の女の一生を貫いて実践された言葉である。

私はいつも母からこの言葉を聞かされて来たのである。

井原町から芳井村の百姓の家へ嫁いで来た母はむずかしい姑と、短気で我ままで手の早い父とに仕えて、一度も口返答とか弁解がましい言を云うたことのない人であった。どんなに無理なことを云われても、ただハイハイ私が悪うござりました私がいたらんためでござりますとわぶるのみであった。全く無抵抗の母であった。「柚子の木を逆さに上^{のほ}れと云われても口を返えしてならん、それが女の道である」と常に云うて居った。私の母がいかに忍従の無抵抗生活をした人であったか、私がその塩辛に不似合によく感動し、よく泣くのは実に母からの遺伝であるとともに、後年私がトルストイの無抵抗に共鳴し、日本の切支丹迫害に際してその無抵抗の態度に絶対的讃辞を呈し、ロシヤに於けるズボボル教徒が徴兵に際して銃を取らないで抵抗したことから国家から受けた大迫害に対してあくまで無抵抗を守りつづけた後、英国の非戦論教徒であるクエーカーに援けられて徴兵免除の条件つきでカナダに安住の地を得た、こうした色々に熱涙を惜しまない、いや私はこうした事柄に対してはその熱涙の流れるのをどうしても止めることが出来ないのである。

また私が日本の無条件降伏にあたって、日本の将来は永久中立のスイスに学ぶより外に道のないことを考えて、平和日本の建設を叫んでしかもその道の困難と苦痛に直面する今日の青年男女に対して日本亡国の時代的責任を感じて全国行脚の講演の最後に「甚だ相済みません。どうかおゆるし下さい」とわぶるそれ等の一切は誠に私の母の賜ものであるのだ。私は母や弟妹に勇ましく別れをつけ、見送ってくれる近所の人々にも挨拶して、この日の午後三時頃であったと思う、足次村を去ったのである。その夜はこの事の主唱者である井原の荻田のおじさんの家(母の生家で当主は母の弟で元治郎と云う)に一泊した。

十月十六日未明、私は神戸大阪への土産として松茸のわらぶと二つを持ち、たいまい、一円と云うお金をもち、人力車で笠岡駅まで運ばれ、汽車に乗せられたのである。汽笛一声とともに人力車夫が、「坊はんさえなら——」と云うてくれたのは私が聞いた故郷最後の声であった。動き出した汽車の中には一人として知った顔はない。この時始めて私は淋しさと悲しさを覚えたのである。年僅に十二歳のとくに小柄な私は車中の誰れ彼れから賞